

こんにちは。嘱託員の村上です。

歴史資料室には青森市の歴史に関するさまざまな問合せが寄せられますが、中でも地名・町名に関する問合せを多く頂きます。今回は過去に頂いた問合せの中から、^{よししげ}嘉重町の町名の由来について取り上げたいと思います。

嘉重町は長島三丁目の一部（長島小学校と柳町通りの間にある地区）を指す町名（通称）で、現在は町会名として使われています。嘉重町という町名はかつてこの場所に別荘を構えていた実業家・鎌田嘉助と、その息子・重吉の名前から一文字ずつとって名付けられたものといわれています。

鎌田嘉助は魚や荒物の行商で財をなした後、着々と事業を拡大して青森市を代表する実業家の一人となりました。彼は明治10年代から20年代にかけて、荒物を北海道へ移出し、北海道で海産物を買入れて青森で販売することにより、大きな利益を得たといえます。また、米町に店を構えて津軽味噌を製造し、北海道などへ移出していました。さらに、青森町会議員、青森市会議員としても活躍しましたが、明治37年(1904)に45歳で亡くなりました(鎌田嘉助の経歴は『東奥日報』1904年10月4～6日付掲載の「鎌田嘉助君略伝」によります)。

息子の重吉は父の跡を継いで事業を発展させ、青森銀行や青森造船鉄工所などの重役も務めましたが、昭和2年(1927)に41歳で亡くなりました。その後は重吉の息子が家業を継ぎ、昭和10年頃には味噌の製造・移出を中心に経営していたようです。

さて、『ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和青森』(1980年 国書刊行会)に「青森柳町鎌重氏の庭園」という写真が掲載されています。「鎌重」とは鎌田嘉助・重吉が使っていた屋号です。かつて嘉重町にあったという別荘はこの写真の別荘である可能性があります。



青森柳町鎌重氏の庭園
(歴史資料室蔵)

肴倉弥八『青森市町内盛衰記』(1953年 青森市町内盛衰記刊行会)によると、別荘があった場所は昭和6年頃住宅地になり、嘉重町と呼ばれるようになったそうです。ただし、歴史資料室が所蔵する地図「昭和二年 青森市勢一覧」(1928年 青森市役所、『新青森市史』資料編7付図)においてすでに嘉重町という町名が使われていることから、町名が誕生した時期はもう少しさかのぼると考えられます。



嘉重町周辺
(「昭和二年 青森市勢一覧」(1928年 青森市役所、
『新青森市史』資料編7付図))

なお、嘉重町のように人名が由来となっている町名として、ほかに大坂町(大坂金助:詳しくは「あおり歴史トリビア」第40号)や相馬町(相馬駿:詳しくは「あおり歴史トリビア」第294号)などがあります。

※今回の内容は、『青森市史』別冊 人物編(1955年 青森市)、『自治ト産業附人名鑑』(1935年 東奥産業通信社)、「町内拝見」No.470(1986年9月12日付『東奥日報』)などを参考にしました。